

令和3年度第1回 武蔵野市在宅医療・介護連携推進協議会 議事要録

■日 時：令和3年9月3日（金）午後7時～午後8時2分

■場 所：オンライン（事務局：市役所西棟8階813会議室）

■出席者：田原順雄、天野英介、石井いほり、谷口勝哉、佐藤博之、鎌田智幸、秋元千香、齋藤直樹、磯山公一、石川公教、小島一隆、武永慶志、小原光文、金丸絵里、三浦弘嗣、守矢利雄、河西あかね、山田剛（敬称略） 18名

■事務局 保健医療担当部長、地域支援課長、生活福祉課長、高齢者支援課長、高齢者支援課相談支援担当課長、障害者福祉課長、保険年金課長、地域支援課3名、高齢者支援課1名

□議事録

1 開 会

2 委嘱状交付

各委員に委嘱状を交付。（オンライン会議のため郵送）

3 配布資料確認

事務局より配布資料の確認を行った。

4 協議会会長及び副会長の選出

武蔵野市在宅医療・介護連携推進協議会設置要綱第4条に基づき会長に田原委員が互選された。また、副会長に齋藤委員が指名された。

【会長】会長を務めることになりました武蔵野市医師会会長の田原です。今年度もよろしくお願いいたします。

新型コロナウイルス感染症の感染拡大によって、様々な会議その他がこういう形で行わざるを得ない状況ではあるが、先般も、多職種連携の研修会を大変盛況に進めることができた。皆様のご協力のおかげであると思う。

我々が作り上げてきたこの在宅医療・介護連携推進協議会、そして、その目的とす

る地域包括ケアシステムが、これからは、コロナによって今自宅療養をしている方々に少しでも役に立てばと思っている。まだまだいろいろと課題はあるが、みんなで協力して解決していきたい。

5 議 事

(1) 在宅医療・介護連携推進事業の進捗状況について

(2) 令和3年度の取組みについて

事務局より在宅医療・介護連携推進事業の進捗状況及び令和3年度の取組みについて報告した。

【会長】在宅医療介護連携支援室の報告をお願いします。

【委員】令和2年度においては、相談件数が276件と、はね上がっている。これはやはりコロナ関係の相談が121件入っているというところで増えたものである。初期にはPCRの検査ができるところもよくわからないとか、PCR検査を受けるまでの段取りといったところの相談も多かった。また、在宅療養中で、通院や、動いたりできない方の相談もあった。

あと、コロナを除いた相談内容としては、大学病院から専門性のある地域の先生のところに転院したいとか、専門家の往診の話とか、前年度と同様のものがあつた。

転院等については、面会ができないとかいろいろなことで減った感はあるが、1つ心に残っているのが、ターミナル、緩和ケアを故郷で過ごしたいといって地方の病院に申し込んでいたが、東京から拒否されて困っているというような、やはりコロナ関係の相談があつた。

あと、やはりコロナで皆、心も乱れているということで、家族も本人も含めて精神科対応の相談が増えたようである。相談者としては、やはり医療機関からPCR関係等々で増えており、いろいろな先生方とも顔見知りになれたので、今後生かしていけるかなと思っている。

その他の中に、ホームページをたどってやってきたという市民の方もいた。今、介護をしているが、自分がかかってしまったらどうしようとかという先々の心配は、傾聴して適切なところにつなぐということで随分落ちついていただけたと思っている。やはり、この在宅医療・介護連携推進協議会がずっと活動してきたことによってPCR検査とか、そういったところも非常にうまく回ったと思っており、今年度のワクチン接種業務とか、これ

からの抗体カクテルの窓口とか在宅療養についての相談に関しても、本当にこの協議会で今まで培ってきたものを生かせたと思っている。昨年度もよい活動ができたと思っている。皆様のお力添えでやってこれた。

【会長】委員には大変幅広く活躍していただいたので、我々としてもありがたく思っている。

活動報告、各部会報告、今の状況の報告が終わったが、入退院時支援部会部会長から何か補足はあるか。ほかの部会長は委員なので後で発言いただくが、入退院時支援部会について、もし何か追加とか意見があれば先に伺っておきたいがいかか。

【入退院時支援部会長】 お手元の資料にもあるかと思うが、今年度、入退院時支援部会では、新たに介護事業の連絡会の方に参加いただき、患者、利用者の住み慣れた地域で生活が継続できるよう、包括的な支援に目標を置き、コロナ禍での対応、医療、介護、福祉における入退院時支援のあり方について部会内で広く意見交換を行う予定である。

令和元年から使い始めた入院時連携情報シートの運用については、かなりケアマネジャーのほうでも病院のほうでも使われている方が多くおり、報告件数としては減っているようだが、実際はかなり定着している。

昨年から、コロナのこともあり、コロナ禍に対応する内容の追加や見直しなど検討を継続していく。私どもの所属機関でも、このシートの運用によって、居宅側と病院側が早期から問題とか課題の共有が図れ、地域包括ケア病床を運用する上でも、シートをきっかけに情報を求める次のアクションにつながり、院内スタッフの意識化も進んでいるように思う。居宅の方との関係にかなり能動的に取り組めるようになったというふうに感じている。

あと、重点課題としては、やはりコロナ禍にあつての退院支援のときの、いわゆる多職種連携、コロナ禍により対面カンファレンスが行えないとか、居宅側の方への情報提供がうまくできているのかとか、家族も先ほど委員からも話があつたように、かなり面会制限があつて患者の状態を把握し切れていない状況下で、でもやはり家で生活をされたいという思いを持たれる方もたくさんいるので、患者の状態把握が難しい中で、家族の介護指導も含めて、いかにしてこれまでの退院支援に近づけていけるかというところに力を置いている。

新型コロナの感染症の方で、感染の隔離が解除されたらすぐに家に帰ってというふうに言われる方もいる。実際にこちらの病院でも最近そういった方がいた。そういったような状況として、部会としては、これまで積み上げてきた顔の見える関係性にに基づき、こうい

った緊急の事態に対応するような、できるとかできないの二者択一ではなくて、いかに感染管理を行いながらカンファレンスを行うかとか、動画や既存の連携ツール、あと、いわゆる退院時のサマリー、文書なども用いて、MCSの活用とかZoomによるウェブ会議などの取り組みとか、できるところがないかという視点で、各方面のご意見とか取り組みを伺い、入退院の方への支援の充実を図っていかねばと考えている。

【会長】 それでは、順番に委員の方からいろいろとご意見を伺いたい。

【委員】 地域医療連携ということで、私が今この会議に参加しているのは入退院時支援部会だが、この1年を振り返ってみて、やはり、うまく顔を合わせて直接退院支援ができなかったということが大きな問題で、居宅側からそこが非常に困ったという声をたくさん聞いている。

今、コロナの在宅療養の話が非常に盛んにされているが、特に高齢者で、アフターコロナ、それから家に帰るというステップの方がこれからだんだん増えてくると思うので、この部会で今まで培ってきた流れを生かして、この地域の包括ケアのこれまでの経験を生かして、武蔵野市独自の流れがつかれていけばいいと考えている。

【委員】 最近、やはり若い年代に感染が増えているということで、孫が感染した同居の高齢者とか、いろんな相談が来ている。そうすると、孫のほうには在宅療養者の医療的な支援、高齢者のほうには今までどおりの介護の支援ということで、やはりより一層の医療介護、訪問介護等々の連携が必要だなと思っているので、今までのことも含め、今私たちが踏ん張ることが試されているのかなと思う。

【委員】 歯科は比較的訪問診療は少ないけれども、やはり専門にしている先生たちもいて、もし、そういうコロナの患者、もしくは濃厚接触者の疑いの方がいるようであれば、どのように対応していけばいいか。市ではどのようなシステムを構築されているのかをお聞かせ願いたい。

【事務局】 武蔵野市独自の取り組みとして、今日も報道機関、新聞等に載っていたところだが、在宅療養者が増えているということで、今まで在宅療養者支援窓口を設置し、レスキューフーズということで食料の配送等を実施していたが、生活支援及び医療支援の機能を拡充した上で9月1日より在宅療養者支援センターを開設した。具体的には、食料品だけではなく、日用品の支援と安否確認を福祉公社にお願いをするという内容である。

また、会長から話があるかもしれないが、医師会と協力し、在宅療養の方に対する支援も強化するという形になっている。

【委員】ありがとうございました。

【会長】続きまして、一言何か、質問あるいは意見をお願いします。

【委員】薬局の今年における環境だが、地域連携薬局と専門医療機関連携薬局の認定が始まった。地域連携薬局とは、多職種と連携を図りながら、病気になった方の地域包括ケアシステムの一翼を担うような薬局となる。また、専門医療機関連携薬局とは、がん等の専門的な薬学管理が必要な方に、ほかの医療機関と連携して対応するような薬局である。いずれも地域の多職種との連携が重要になってくる仕事となるため、この会ともども、ぜひ薬局の活用をよろしくお願ひしたい。

【会長】先ほど事務局から話があったが、自宅療養支援については、とにかく医療機関と薬局との連携が非常に大切で、我々としても薬局、薬剤師会を非常に頼りにしているので、どうぞよろしくお願ひします。

続きまして認知症連携その他、報告事項に追加があったら、それも含めてどうぞ。

【委員】先ほど事務局から報告が簡単にありましたが、補足します。

まず、今回、6月29日に第1回部会をやっている。認知症疾患医療センターという言葉があり、我々がそれをやっているが、発足してから時間もたっていることもあり、その機能というものを十分理解いただいているかどうかもあったため、第1回の部会では、認知症疾患医療センターの機能についての説明を当院から行った。

今後の課題としては、ほかの部会でも同様と思うが、各部署、各職種の代表が集まってきて、何年かごとにまた顔もかわったりするので、そこで築き上げた多職種連携のノウハウみたいなものが、その担当になっているときにはいろいろ考えて勉強する機会もあると思うが、メンバーがかわっていろいろな意見をもらおうと、どうやってつないでいいかわからないとか、同じような課題が常に繰り返されているような状況なので、やはり広い範囲でそのノウハウを伝えていかなければいけないと考えている。

これまでの経験において、特に認知症の初期集中支援事業をやっているが、そこで繰り返し広げられるやりとりが、事例研究としてはとても実践的でいいというふうに皆共有しており、そういうことを含めて、広い方にそういう連携のノウハウを習得して欲しい。そういう意味での研修のようなことができればいいなということを今回は考えている。

【会長】コロナがなければ、とにかく認知症に関しては最大のテーマになるところだったので、引き続きよろしくお願ひします。

【委員】訪問看護は、今は在宅のコロナの療養者が多いということで、対応として一番必

要とされているところは自覚しています。

先月の後半ぐらいから、ミーティングどうこうという話がちょっと出ていたのが、この間の多職種連携の勉強会を聞いて、みんなベースをつくってから話そうということで、とりあえず昨日、訪問看護の私と副会長、看護ステーション協会理事の所長と支部長の4人で、ある程度ミーティングをした。来週月曜日に、今度は連絡会をオンラインでしませんかと言ったら、ほぼほぼの訪看の人が、したいということで、そこでまた話をさせていただく。

昨日のミーティングで出たところでも、行くに当たっては、ある程度の決まりというか、確保されていることがないと、ステーションとしてスタッフを守るという立場からもいろいろあるので、その辺をちょっと詰めてから、できれば一度、会長とお話をする時間をとって、これからも連携していきたいと思う。ほかの皆さんにも協力をお願いすることとしていきたいので、よろしくお願ひしたい。

【会長】これまでの訪看のように、もともと在宅の方の訪問だけではなくて、これからは自宅療養支援、コロナの方について、医師、医療機関のほうから、委員を通じて依頼があるかと思う。それについては今のように、何か資機材が必要であれば、医師会からの提供も考えているのでよろしくお願ひしたい。また打ち合わせをしたいと思う。

続いて、副会長、よろしくお願ひします。

【副会長】ケアマネジャーの立場からということで、今年度、ワクチンが始まってからは、ワクチンの接種の支援として、なるべくワクチンが打てるような環境を整えるということが1つあった。

その後は、感染者が急に増えてきているということもあり、現状では、どういう状況になっているのか、ケアマネジャーとしてはなかなか見えにくい部分が多い。病院でも、やはり患者数が増えてきているのはわかるし、地域包括ケア病床も今、病院がコロナの方でいっぱいであったり、入院できる環境がないので、地域包括ケア病床の方をストップしているという現状も聞いている。コロナが始まってからは、地域包括ケア病床でリハビリをしたいという環境もなかなかできない状況になってきている。

介護の現場でも、デイサービスに行くとうつってしまうのではないかと、ショートステイも感染するのではないかと、感染が心配で外出しないという中で、デイサービス、ショートステイに行く機会を減らしている方が多い。その中で、自宅で介護をしている介護者がかなり疲弊してきている現状にある。

武蔵野市内で、自宅療養が多いと言われている中で、どれぐらいの方、どれぐらいの年代の方が自宅療養しているのか、そういった事例というか現状がなかなか把握できない。現在もデイサービスとか老人ホームとかで感染者が出てきている。その事例に基づいて感染を予防していくことも、医療と介護の連携の中で、これ以上感染者を増やさないということには必要だと思う。そういった意味で、例えば市のほうで事例を提供していただくというのも必要かと思っているのでよろしくお願ひしたい。

【会長】大変重要な指摘であるが、市のほうも、それは把握し切れていないところがある。各担当医は、自分の患者についてはわかるが、把握は全て届け出をした保健所がしている。保健所は情報を受け取ることについては熱心だが、開示をしたり共有することについては非常に消極的で、それは市長も前の記者会見のときに言っていた。とにかく個人情報だと言って、なかなか門戸を開かないところがあるので、このあたりを武蔵野市と保健所でうまく情報共有ができるようになると、今言ったようなことが解決するのではないかと思っている。非常に重要な指摘であった。

【委員】前回も多職種連携の研修で、武蔵野市として、あと医師会のほうでどういう取り組みとか、どういう方向性を持ってやっていこうという話を伺えたので、とても勉強になった。

私は訪問介護のヘルパーの事業所をやっており、感染症の方の所に行くのは訪問看護師が多いかと思う。訪問介護として、どういったところで役に立てるかということは、これからも連絡会議のほうでも話し合っていきたいし、できることをやっていきたいと思っている。いろいろと勉強させていただければと思う。

【委員】先ほど事務局からも話があったが、福祉公社では、自宅療養者への日用品等をお届けし、あわせてインターホン越しですが安否確認をするという事業を市から受託している。

届けるものは、トイレトペーパーや冷却シート、水などの日用品のセットと、ゼリーやカップのご飯、カップ麺等の軽食のセット、この2種類を希望に応じて届け、安否確認をするという事業を行っている。受付については、安全対策課が行っており、そこからのオーダーで配っている。

この委託については、9月1日から始まり、初日は特になかったが、昨日は1件、本日は3件、計2日間で4件配達を行った。土日は行っていないが、また来週月曜から始めて、どのような状況になるか、見守りたい。

【会長】ひとり暮らしでコロナになった自宅療養支援としては非常に大切な役割を担っているため、引き続きよろしく申し上げます。

【委員】在宅介護・地域包括支援センターは6カ所あり、そのセンターの中でも、在宅療養者の支援が出始めています。それぞれに対応した事例について、各センター間で共有をして、どのような対応をとっていったらいいとか、そのようなことを積み重ねている。

その中で、我々も生活支援をどうしていくかというところが1つ、テーマとしてあり、支援体制をどのように構築していくのか、医療、介護、生活支援というところをどのように組み立ててやっていくのかというところをスムーズにできるといいなということも議論しながらやっている。やはり医療との連携は非常に重要になると感じている。

【委員】それぞれの部会で進められているようなことが、やはりコロナというところもあって、さらに強く進められているというのは、報告を聞きながら感じた。

さらに、部会ごとに出てきている課題、ほかの部会とも重なってくるような課題が出てきていると感じた。

例えば、入退院時のところでは、コロナというところもあって、オンラインのところでもやりとりをすることが増えたとかそういったことになってくると、MCSも活用しているという話も聞くし、そうするとICTとの連携であったりとか、部会同士の連携の強化ということも、より医療と介護の連携を強く進めていくには必要と思った。

【委員】基幹相談支援センターというのは、市役所の障害者福祉課の中にあって、ケースワーカーを配置していて、各相談であったり、事業者支援を行っている、そんな部署ということで、障害者福祉の分野の立場で参加させていただいている。

障害者福祉課のコロナ禍の中での取り組みの代表的なものを1つだけご紹介させていただくと、医師会の協力もいただきながら、知的障害のある、主には行動障害と呼ばれるような方々、集団接種の会場になじみにくいような方々を対象に、保健センターでワクチンの接種を7月から8月の中旬にかけて行った。医療の助けがないと、一般の方々にまじって、接種や医療の提供を受けられない方、難しい方というのは一定いるため、福祉の立場からすると、大変ありがたかったと思っている。

我々は、身体、知的、精神の3障害の方々の幅広い年齢の相談を受けたり、支援をしたりしているが、その中でも特に知的や精神の方々の困り事が声としてなかなか上がりづらいところがあると感じている。この会の中では、そういった方々の視点からも何か提案ができたらいいいと思っている。

特に、医療との連携というところだと、この4月から第6期障害福祉計画が3カ年の計画として始まったが、その中で1つ、精神障害の方が病院から地域へ、地域移行という形で出てきやすい、そんな地域づくりも含めた仕組みができたらいいいところになっている。この部会で直接話題になることは少ないかもしれないが、この3年間を見据えた中で、障害者福祉課の視点でも取り組みをしていくことを考えている。

【会長】保健センターでの障害者の接種については非常にいい取り組みだったと感じている。他地区ではあまりなかったと思う。

【委員】普及・啓発部会では、先ほども事務局から案内があったが、武蔵野市における在宅医療・介護連携について、市民セミナーとかリーフレットその他を通じて、市民の方々に広く情報を提供して啓発していくといった取り組みをしている。その中で、医療や介護が必要になっても、住み慣れたまちで、安心して、自分らしい生活を過ごしていくことができるように、その方にとってよりよい選択に結びつくような情報をわかりやすく提供していくことがとても大切であると思っている。

そうした中で今、コロナの状況で、啓発の活動のほうも、人が集まってやるタイプのものなかなか難しくなっているため、より工夫をした情報の発信、提供の仕方が求められている。

8月の下旬に部会の初回が開かれ、先ほどの案内のとおり、市民セミナーやリーフレットの改訂を進めている。また、委員や部会員の方々にいろいろと意見をもらいながら、よりよい啓発活動に向けての取り組みを一層進めていきたいと考えている。引き続き協力をお願いしたい。

【会長】市民セミナーは、まだテーマが決まっていないのか。上映するものは決まっているのか。

【委員】先日の部会の中では、まだ確定はしていない。昨年度オンラインで上映した映画が非常に好評であったというところから、部会員は、同じ映画でもいいのではないかという意見もあった。また、そのほかのものと幾つか複数選択して視聴できるものもいいなど、いろいろな意見が出ている。

【会長】今、保健所は大変であると思う。我々も、いつも保健所の方と連携してやっていたかなければならないし、やっているところだが、そういった現状を含めて、お話しをお願いしたい。

【委員】私自身は、多摩府中保健所の統括の保健師ということで、日々コロナのほうにも

かかわりながら進めている。

武蔵野市は、本当に先駆的に様々な取り組みを進めており、私も前任の南多摩保健所には、武蔵野市の取り組みを話しに来てもらったりと勉強させていただいた。

この1年半、保健所はコロナの波にのまれており、特にこの第5波については、8月中旬には一日の発生件数が400件以上ということで、発生届を受けて直ちに保健所は皆に電話をして、病状確認であるとか、療養の方針であるとかをいろいろ説明したり、どこでうつったかということと、誰に広げたかというところを聞き取りながら、拡大防止というところに努めなければならないが、さすがに8月中旬、この2～3週間は、電話かけが数日遅れてしまうこともあった。そういう意味では、市の取り組み、配食の件とか日用品の取り組みとか、相談対応というところでサポートしていただき、本当にありがたく思っている。

また、地域の関係機関の皆様方も、日々ご対応いただき感謝を申し上げる。

現在、保健所の看護職だけでは回し切れないというところで、当然、保健所全体で調査なども取り組んでいるが、地域の関係の医療機関とか訪問看護ステーションの方々に声をかけ、9月の頭から健康観察であるとか調査であるとかというところも手伝いに入ってもらっているような状況である。そういったところでも声をかけたところ、皆さん続々と、応援に入りたいと言ってもらい、涙が出るほどありがたい思いでいる。

また、これから在宅の取り組みというところで、保健所も、先生方、地域の関係者の皆様方とも一緒に取り組んでいきたいと思うので、引き続きよろしくお願ひしたい。

【会長】この場とはちょっと離れた質問だが、今、HER-SYSに入力してから大体何日ぐらいが平均なのか。患者のところへ連絡が行くのは3日、4日かかっているように思うが。

【委員】実は、届けが上がってきた方に今日やっと電話ができるような状況になってきたので、ようやく追いついてきたところである。この2～3週間は、3日、4日かかっている方も、中にはいた。

個々の事例は、事案が発生したときに関係者の方に個別に相談させてもらい、対応してもらっているところである。

また、クラスター等の情報については、健康課長を中心に、毎日のように報告している。患者の発生状況については、武蔵野市のホームページに出ているかと思う。皆様方の努力のたまものと思うが、高齢者の発生がほぼなくなっているような状況であり、しかも、

調査をしていますが、ワクチンを2回接種している方は、本当に元気な方が多いという印象がある。ただ、このところ、やはり10歳未満の子どもが目に見えて増えてきているという印象があり、これから学校が始まってからどうなるのかなど心配しているところである。

【会長】確かに、高齢者の病気から、今度は子どもの病気ではないかと思うぐらい、小児が増えている。

全体を通じて、委員の方から何かあるか。

それでは、全体を通してまとめてもらえるか。

【委員】今年の4月からスタートした高齢者福祉計画・第8期介護保険事業計画、この計画は3年間でスタートしたが、当然、このコロナ禍で計画を策定したので、そういった状況も踏まえながらの内容となっている。引き続き、在宅医療と介護の連携の強化であるとか、また、先日、研修会を開催したばかりだが、保健、医療、介護、福祉の有機的な連携のための研修の充実、いずれの事業もレベルアップ事業という形で計画の中にしっかりと書き込み、落とし込みをしたので、この計画に沿いながら、また、委員の皆様のご理解、ご協力をいただきながら、この取り組みはしっかりと進めていきたいと考えている。

それと、先ほど来、会長からもお話しいただいたが、目下の大きな課題は、自宅療養者を地域の中でどう支援していくのか、サポートしていくのかだと市としても認識をしている。そういった意味では、武蔵野市は他自治体に先駆けて、この連携推進事業にしっかりと取り組み、その事業もかなり充実をしてきているので、この事業をいかに自宅療養者の支援に活用していくのが今後の大きなポイントである。ぜひ委員の皆様、関係者の皆様のご理解とご協力、また、英知を結集して、この非常に困難な時局をしっかりと乗り越えていきたいと思っているので、引き続き皆様のご理解とご協力を賜れば幸いである。今後ともよろしくお願ひしたい。

【会長】簡潔にまとめていただいた。

今まで、この地域包括ケアということをご数年間、コロナの前までずっとやり続けてきて、国もそれを一生懸命推進していたにもかかわらず、コロナになってから地域包括ケアの「地」の字も出てこなくなったのはなぜなのかというところがあるが、そういうことをやってきたからこそ、こういった自宅療養支援事業にしても何にしても、みんなと協力してやることができていると実感をしている。

この現在の状況は、もちろん保健所だけでは対応できないし、医療機関だけでも対応はできない。やはり一人ひとりみんなと協力をし合って進めていくことがとても重要だと強

く感じている。そのため、今後も市と保健所を含めて情報共有して、役割分担をしっかりとしていかなければ、到底乗り切れるものじゃないと思っている。引き続き皆さん方のご協力をよろしくお願いしたい。

また、コロナに特化すると、どうしても医療的なものを中心になってしまって、介護だとかリハビリだとかということが少し影を潜めるような感じになるが、そうではなく、やはりいろんな意味で、いろんな角度で、いろんな人たちがいるので、多くの職種の連携はとても大切だと感じている。また、今年度まだまだ期間はあるので、皆さん方とよく相談をしながら進めていきたい。

これで今日の大体の予定が終わったが、全体を通して何かあるか。よろしいか。

それでは、予定された議事は全て終わったので、事務局に返します。

6 その他

事務局より事務連絡

7 閉会

午後8時2分 閉会